



浅草今半の「牛どんのぐ」

先日、東京に住む長女から、すき焼きの名店「浅草今半」の「牛どんのぐ」が手紙と共に送られて来た。

手紙には「毎年5月に開催される浅草の三社祭はコロナ禍で延期。多人数でみこしを担ぎ、200万人ともいわれるほどの人が集まる超密なお祭りなので、今年は中止かなと思っていました。と、色々な感染防止対策をとって、10月17日・18日にはみこしが出たのですが、トラックに乗せられたみこしに送られて来た。私の住むマンションの前をおはやしと共に通り過ぎていきまじ焼き風に仕上げてください。これがまた、レトルト食品とは思えないほど、本当に美味しかった。早速、東京の長女に電話で報告した。



みこしを乗せたトラック

ほとんどなく、といった感じでした。交差点の角にある浅草今半の前でも着物を着た従業員の女性たちが、牛肉の佃煮やレトルト食品のお買得セットを販売。でも、買い求める人の姿はなく、思わずたくさん買ってしまいました。浅草で頑張る飲食店応援のおすそわけです」とあった。

「牛どんのぐ」は、牛肉煮、こんにゃく煮、割り下が別々に入っていた。妻がねぎ、豆腐、しめじを加えて、すき焼き風に仕上げてください。これがまた、レトルト食品とは思えないほど、本当に美味しかった。早速、東京の長女に電話で報告した。

食育ということがよく言われるが、食材選びや料理のために母親が疲弊してしまったのでは意味がないだろう。レトルト食品もうまく使い、そのぶん家族の会話の時間が増えればそれも良いので

牛どんのぐ(牛肉煮、しらたき煮、割り下が入っている)



はないかと思う。があるが、私は行く機会に恵まれなかった。

レトルト食品つながりでもう一つ。インド人留学生が日本のお土産として「ボンカレー」を大量に買って帰ったという話を聞いた。「インドはマハトマ・ガンジー、大塚中学フジヤ・カンジ」と叫んだ。その一言で私は生徒会長に選ばれた。古き良き時代の思い出である。悠久の国、インド。妻と長女は訪れたこと

浅草今半

明治二十八年創業

国際通り本店



浅草今半のご案内